

令和6年度 部・分掌部評価シート（知的障害教育部門 小学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①生活のリズムを整え、身の回りのことをできるだけ自分でしようとする態度を養うとともに、 学校努力目標（2）—③⑧	・日常生活動作の自立をめざし、毎日繰り返し取り組む。一人一人の実態に応じた目標を立て指導を行う。 ・挨拶や返事の習慣をつけられるよう、学校生活の中で繰り返し促していく。また、周りの人に自分の気持ちを伝える手段も身に付けられるようにする。	4	○それぞれの児童の実態に応じた支援の方法を探り、実施してきた。以下の面での成長が多く見られた。日常生活動作、援助要求、意欲的に取り組む姿勢、発語がない児童の意思の表出。 ○玄関での挨拶運動を高学年が行っている。挨拶の大切さを伝えていきたい。小学部のうちから挨拶ができる子を育てたい。
②遊びや学習、生活体験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守ろうとする態度を養う。 学校努力目標（2）—③⑥⑦⑧⑩	・児童が興味関心を持って取り組めるような遊びや学習を行い、児童が心地よく感じることや好きなことを見つけられるようにする。 ・集団生活での決まりを明確にし、児童が分かるような提示の仕方を工夫する。決まりは少しずつ段階的に理解できるようにする。	3	○繰り返し、一貫した指導により、決まりを守れるようになってきた児童が多く見られた。 ○タイマーが鳴ったら終わり、授業の流れを視覚的に提示する、いつもと違う活動があるときはより丁寧に伝える。 ▲性教育の必要性を感じている。系統立ててどのように学習を進めていくか検討していく。
③児童の発達段階に応じた教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。 学校努力目標（2）—①②③④⑧	・単元別指導計画表を活用した授業実践を通して、児童の発達段階に応じた授業実践ができているか、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践ができているか等の評価・検証を行う。 ・校内研究とも絡めて、児童一人一人の課題に応じた自立活動が実施できるようにする。研究授業や公開授業を通して、知的障害教育部門における自立活動のあり方についての検討を行っていく。	3	○分かる授業作りを目指し、様々な工夫を行うことができた。 ○単元別計画表を活用したことで目標や授業の流れ、T2の動きなどの共有、場面の設定、手立ての検討、統一した指導、同じ視点での評価などができた。 ○意欲的に取り組む児童、落ち着いて取り組む児童、自立活動で学習したことを他の学習場面で汎化ができた児童などが多く見られた。 ▲身体を動かす機会、身体を上手に動かすことができるような学習を多く設定したい。

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・6年間の系統性を考えての校外学習、生活単元学習についての見直しが必要である。
- ・ヒヤリハットについてはいろいろなケースがあった。今後も情報共有し、どの学級でもあり得ることと認識し、学部全体で気を付けていきたい。また、部主事への報告、相談をすぐに行うことの徹底も図っていききたい（部主事が不在のときは管理職にすぐに報告、相談する）。

令和6年度 部・分掌部評価シート（わかす部門 小学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①周りの人や物への関心を高め、豊かに関わる力を育む。 学校努力目標（2）—9 （3）—2	・個々の実態に応じて人や物に関心がもてるような学習内容や指導方法の工夫に努めることで、自ら関わり、相手を思いやる気持ちの素地を育むようにする。 ・学級間の合同学習やあたご部門との学年間交流、交流及び共同学習など、関わる対象の幅を広げ、児童同士の関わり合いができるように努める。	3	○同じ課程での合同学習を多く設定した。いろいろな人と関わる中で、自分から関わろうとする姿が少しずつ見られるようになってきた。 ○児童同士でやり取りをする機会を日々意図的に設定することで、教師の促しを受けて物の受け渡しや依頼などを行うことができた。休み時間に、自然な関わりの中で会話をする場面も出てきた。
②児童の発達段階に応じた教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の充実に努める。 学校努力目標（2）—2 （2）—3	・個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、各教科及び自立活動の指導において教師間で児童の目標や指導内容、手立て、評価等を共有し指導の一貫性を図る。 ・児童の実態や課題から授業のねらいを明確にするとともに、授業で身に付けさせたい力は何か、どのように身に付けさせるかに焦点を当て研究授業及び授業研究会を通し、教員一人一人が授業改善に努めていく。 ・一人一台端末を効果的に活用し、教科の学びを深める。	3	○単元別指導計画表で単元の目標や内容を明確にすることを心掛けた。担任間でコミュニケーションをとり、授業での児童の様子や保護者からの情報などを共有し、授業改善につなげることができた。 ▲多くの研究授業、授業研究会を実施した。児童の実態や課題からのねらいの検討はできたが、どのように力を身に付けさせるか十分に深められなかった。
③様々な遊びや学習の中で、主体的に取り組む力や、自分がしたいことを自ら選んだり意思決定をしたりする力を育む。 学校努力目標（2）—7	・キャリア発達の指導内容表を参考にしながら、指導方法（子供の表出を待つ場面や声掛け等）の工夫やTTの役割の確認をすることで児童自身が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・自己決定、自己選択を促すためにICT機器を児童の実態に応じて効果的に活用したり、自己決定、自己選択する機会を意図的に設定したりすることで主体的に行動できるようにする。	3	○写真カードやスイッチなどを使ってやり取りする機会を設定し、教師や友達とのやり取りを期待したり、楽しんだりすることができた。 ○キャリアパスポートを作成する際に、前年度の写真を見て見通しをもって目標を立てたり、写真や動画を見ながら振り返り、具体的にイメージしながら自己評価をしたりすることができた。

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（知的障害教育部門 中学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 集団活動を通して、他者からの働きかけを受け入れたり、相手を思いやりする態度を育てる。	・生徒一人一人がお互いに認め合い、助け合い、学び合う場と機会を意図的に設ける。 ・学校内外の様々な人や事物に出会う体験活動を充実させる。	3	○体育大会等、行事を通して、 <u>自らの役割を意識して行動しながら、周囲にも目を配り、自分のできることを進んで手助けする姿が見られた。</u> ○交流学习では、他者からの働き掛けや考えに触れることが良い刺激となり、これからの生活に生かそうとすることができた。
学校努力目標（2）—②⑩ （3）—②			
② 日常生活の様々な場面において、自分でできることを増やし、継続して取り組む力を育てる。	・自分なりの考えをもって、自ら主体的に判断し行動することができるようになる。 ・自立心や自律性を高め、規律ある生活が継続できるように取り組む。	3	○個々に合った <u>自己支援の方法を身に付けることで、主体性を持ち、自ら考えて行動できるようになった。</u> ○係活動や委員会活動等を通して、自分の役割を果たす責任感を身に付けることができた。また、周囲を見ながら率先して自分のできることを見つけ、行動できるようになった。
学校努力目標（2）—②③			
③ 生徒の発達段階や障害特性に応じた学習を通して、主体的に学ぼうとする態度を身に付けさせるとともに、教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の充実に努める。	・学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。 ・自立活動の時間の指導と各教科等における指導との関連を図る。	3	○学習したことをもとに個々に宿題を出し、取り組ませた。宿題の見直しも行うことで学習の定着が図られた。 <u>学習内容の定着が自信につながり、漢検への挑戦など学習意欲につながった。</u> ○自立活動を1時間目の帯の枠で設定することで、指導の充実となり、学習耐性の向上にもつながった。
学校努力目標（2）—①②③			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について：なし

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

- ・次年度は、理科、社会、職業・家庭の☆4、☆5の教科書を導入する。活用しながら、あたご中学部の生徒に即した教育内容や指導計画等、教育課程を検討していく。
- ・教室不足に伴い、学習活動の工夫が必要となる。教育目標の達成を前提としながら学習グループの編成、クールダウンのための個別スペースの確保などの整備を行っていく。

令和6年度 部・分掌部評価シート（肢体不自由教育部門 中学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①集団活動を通して、他者からの働きかけを受け入れたり、相手を思いやったりする態度を育てる。 学校努力目標（1）—① （2）—⑦	・学年集団を基本とし、実態の異なる生徒同士の関わりを意図的に仕組むことで、お互いを認め合ったり助け合ったりする経験を積ませる。 ・自分の考えや意見と、教師や友達からの助言や意見などを比較したり吟味したりしながら、自分の考えを深めさせる。	3	○「生徒会活動（生徒会役員選挙）」を通して、実態の異なる生徒同士が役割を担いながら関わり合ったり助け合ったりする場面がどの学年にも見られた。そのことにより学年集団の団結が高まった。 ○泊を共にする修学旅行では、日頃から学年で関わってきた成果が見られた。 ▲学級の中にいろいろな課程の生徒が混在することで、授業の終わりが整わず下校がバタバタすることがあった。
②自分の得意なことや苦手なことを知り、少し難しいことにも挑戦する気持ちを持ち、主体的に課題を解決しようとする力を育てる。 学校努力目標（2）—①⑧	・自分でできることを増やしていきながら、得意なこと苦手なことの理解を深めさせる。 ・各教科等の指導の場面で生徒の障害特性や生活年齢に応じて、少し難しい課題を設定し、それに挑戦しようとする気持ちをもたせる。	3	○漢字検定に向けては、苦手な部分を教師と一緒に分析して対策を練り、諦めないで挑戦したりするなど、主体的に課題を解決しようとする態度が身に付いてきた。 ○生徒会役員選挙や学級委員候補などの選出場面を通して、挑戦したい気持ちと不安な気持ちを教師に伝えながら、悩み葛藤する姿が見られるようになった。
③一人一人に応じた進路指導に努め、自分の将来像を見据えて自ら選択し、目標に向けて行動できる力を育てる。 学校努力目標（2）—⑤ （3）—②	・日々の学習の中で定着が図られたこと、できるようになったことなどを学期ごとに学級の中で認め合い、自信を付けさせる。また、教師と相談をしながら次の目標を設定させる。 ・総合的な学習の時間や学級活動の時間、自立活動の指導の中で「想像する」「選択する」「決定する」などの場面を設定し、自分で決めたことを実行に移す力を身に付けさせる。	3	○相浦中学校との交流及び共同学習などを通して、いろいろな考え方や関わり方を身に付けるとともに、自分の行動を振り返ったり、他者との関わり方について考えを深めようとする態度が見られるようになった。 ▲教師と一緒に目標を見定めながら行動に移すことができてつつあるが、そこから得た課題を認めたり課題解決に向けて考えを深めることは難しい。

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（知的障害教育部門 高等部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①自他を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周りの人と協調・協力しながら生活する態度を養う。 学校努力目標（1）—① （2）—②	生徒理解に努めるとともに、職員一人一人の人権意識を高め、職員が率先して人権を意識した言動を見せることで、生徒の人権意識を育てる。 決まりやマナーについて考えたり意見を交わす機会を設けるとともに、様々な場面で協力したり助け合ったりしながら、生徒が主体的に活躍する機会を多く取り入れる。	3	○人権意識が高まり、生徒をさん付けで呼ぶ教員・生徒が増えてきた。 ○授業での話し合い活動が増え、自己主張と他者理解の意識が高まった。 ▲自己表現が苦手な生徒や指示がないと動けない生徒への指導・支援技術を高める必要がある。
②個々の課題に主体的に取り組み自ら考え判断する力を育むとともに、これまでに身に付けた知識や技能を生かしながら課題解決に向けて努力する態度を養う。 学校努力目標（2）—②④⑤ ⑦	学習や行事の振り返りの時間を確保し、生徒自身が自分の課題に気付かせるとともに、次の活動や日々の生活の中でその課題の解決に向けた取組ができるような指導・支援をする。 生徒の取組の過程、頑張りを大切にし、どこがどのように良かったかなどを具体的に生徒に伝えることで、次につながるようにする。	3	○行事の振り返りをすることで、生徒自身が自分の課題を意識するようになった。 ○生徒の行動を具体的に褒めることで、良い行動が増えた。 ▲授業での振り返りの時間が確保しにくく、復習や積み上げが十分ではなかった。研究授業や授業研究を通して授業の流れを検討して、振り返りの時間を確保したい。
③生徒の発達段階に応じて教科学習に主体的に取り組ませるとともに、基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。 学校努力目標（2）—①②③ ④	個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、目標や手立て等を教師間で共通理解し、ICT機器を積極的に活用し、生徒自身が考え主体的に活動する授業実践を行う。 研修や実践を通して、教師の指導力向上を図るとともに、生徒の障害の状態や特性などの実態を丁寧に把握し、自立活動で取り組む課題を適切に設定し、学部や学年全体で指導・支援に取り組む	3	○ICT機器は、ほとんどの生徒が毎日使用し、学習内容の幅が広がった。 ○校内研究で自立活動に取り組む、時間における指導の在り方を学年ごとに検討したことで、経験年数が少ない教員の指導力が向上した。 ▲単元別指導計画の作成が、教員の業務負担を大きくしている。既存のものの活用を検討したい。

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について：なし

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

今年度中に、行事全体を通して生徒に学ばせたいことを全職員で共通理解を図り、次年度にそれぞれの行事を点検し、令和8年度の行事の削減・縮小・効率化を図る。

コース制導入から6年を経過するので、その成果を分析し、今後の在り方を検討する。

令和6年度 部・分掌部評価シート（肢体不自由部門 高等部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 自他を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周りの人と協調・協力しながら生活する態度を養う。 学校努力目標（1）－① （2）－②⑦	・日常の挨拶や返事、生活支援やその他の場面におけるお願いやお礼を言うこと等の指導を徹底させる。 ・各学年や教育課程のまとまりで学習する機会を設け、生徒が相互に関わる機会を増やす。	3	○自立活動や合同学習、休み時間などで学部の中で友達との交流が増え、またあたご高等部生徒と行事や委員会活動で関わる時に相手を意識したやりとりが多く見られた。 ▲挨拶や時間を守るなど実習中は意識できても学校では少しルーズになっている部分があるため、<u>学校生活で一つ一つ取り組んでいくことが将来につながることを理解させていく必要がある。</u>
② 生徒の発達段階に応じて教科学習に主体的に取り組ませるとともに、基礎・基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。 学校努力目標（2）－①②④	・学習到達度チェックリストから各生徒の学習段階を把握し、必要な学習内容や手立てについて個別の指導計画や単元別指導計画で指導計画を立てるなど、諸表簿の活用を充実させる。 ・個別の教育支援計画の目標、自立活動における課題の関連や指導目標、指導内容等について定期的に検証する。	3	○研究で自立活動の指導目標、指導内容などについて事例を挙げて協議を重ねることができ、指導力の向上につなげることができた。 ▲単元別指導計画をツールに情報共有、振り返りを十分に実施できなかった。
③ 自分を見つめ、自分に合った進路について考え、自己選択・自己決定する力を高めるとともに、関連機関との連携を図りながら将来の職業生活、社会生活、家庭生活を見据えた自立の力を養う。 学校努力目標（2）－⑤⑦	・各生徒の進路の可能性に合わせて幅広い情報提供を行い、社会体験実習で実践力を身に付けさせる。 ・生徒の進路希望に合わせて、相談支援事業所との連携をはじめ、職業安定所（ハローワーク）の登録、資格取得やキャリア検定の参加等を積極的に行う。	4	○アビリンピックやビジネス文書実務検定、ビブリオバトルなど生徒が多くのこと挑戦し、それらに向けて学校生活で努力し、自信をつけることができた。 ○ほとんどの生徒が実習に参加し、多くの経験を得ることができた。<u>保護者や相談支援事業所との連携が図れた。</u>

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

・授業内容の見直しや担当者数、既存の行事の実施の必要性や内容の再検討などの見直しを行い、必要な職員数で授業ができるようにしていく。（授業内容や担当者数は令和7年度に実施、行事は令和8年度に向けて検討） ・ⅠⅡ課程、ⅢA課程は、教育課程の履修科目（教科）の配列を複数学年で同じにすることでまとめて授業ができるようにし、複数生徒で学び合いができる工夫をする。またそうすることで職員の持ち時数の軽減にもつなげる。（令和7年度から実施）
--

令和6年度 高等部評価シート（上五島分教室）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①社会で活躍するために必要な知識・態度・体力の定着を図り、授業の工夫・改善に努める。 学校努力目標(1)－②、④	・個々の学習において、できることを高め、できることを増やす授業を展開する。 ・作業学習や交流行事等での集団での学びにおける人とかかわり、自分の役割等、社会で活躍するための取組を実践する。 ・職員は個々の課題にあった集団での授業を展開するための工夫・改善に努める。	3	○自立活動では個々の課題に応じてグループを分け学習を行った。 ○からだづくりの時間は、それぞれが目標に向け取り組み、体力の向上が見られた。 ○国語ではタブレット端末を使用して発表する機会を設けることで苦手な生徒も発表できるようになった。 ▲交流学習等を通して、集団での役割や人との関わり方を身に着けるための指導、支援を行う。
②自己選択・自己決定する力を高めながら進路実現を図り、自立する力を育成する。 学校努力目標（2）－⑤	・作業学習や学校生活全体を通して集団生活のマナーを守り、友達と協調・協力しながら活動できる場を設定する。 ・生徒や保護者の進路に対する考えや思いを踏まえ、進路実現に向けた段階的・計画的な指導支援を行う。	3	○作業学習では仕事内容を分けることで他者との協力や自分の役割を意識した学習活動ができた。 ○ホームページ等での情報発信が定期的に行われるようになった。 ▲2年時から島外での実習が難しいため段階的な進路指導をするために他の方法での計画が必要。 ▲実習の評価に対して具体的な課題への指導が徹底できなかった。 ▲早い段階で本人や保護者のニーズを聞き取ることができず、卒業を見据えた計画的な進路指導をすることが難しかった。 ○歯磨きや入浴など衛生面の課題を解決できた。
③自分も他者も大切に育て、上五島地区の発展に寄与するための教育実践に取り組む。 学校努力目標（3）－②	・生徒が自分自身の良さに気付いたり、課題に気が付き解決したりする場面を提供する。 ・上五島高校地域と連携し、地域貢献活動を行う。(花壇整備、観光施設の装飾など) ・分教室通信やホームページ等で行事や学校での取組を発信する。	3	○交流や美化活動を定期的に行うことで地域に開かれた活動ができた。 ○今年度は頻回にHPが更新されている。 ○▲上五島高校との交流をさらに高めるために分教室の行事にも、参加できないか企画したい。

部の評価の数値が「2」以下の項目について → なし

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

○生徒も含めて教員も上五島高校との交流をさらに深めたい。(上高の初任研や工業科との学習など)

○進路指導に関しては、自動車学校の入校を含め、個々に応じた適切な面談の設定や早めの対応が必要であると感じた。

令和6年度 部・分掌部評価シート（教務部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 学校教育目標を達成するために単元別指導計画表と個別の指導計画との関係性を明確にし、さらに効果的な活用努めながらカリキュラム・マネジメントを推進し、教育課程を編成する。 学校努力目標（2）—①	・単元別指導計画表については、各部の実状に合わせ、様式の検討及び新しく教科の単元別を作成する。 ・授業計画に単元別を活用することで、授業連絡会で共通理解を行う。時数・内容等について反省を行い、教育課程の編成に活かす。	3	○各学部部門が連携を図りながら、円滑に企画立案、連絡調整ができた。 ○単元別指導計画表を作成していない教科についても、指導内容一覧表（教育課程表の附表）を活用しながら、単元を進めて行くことを部内で、確認することができた。また、単元別指導計画表を活用した授業連絡会を行い、共通理解を図ることができた。 ▲教育課程の編成に活かしていない所もあった。
② 各教科部会において、小中高の連携を図るとともに、各教科等の系統的な指導内容の整理、評価について各学部の実態に即した研究に努める。 学校努力目標（2）—⑧・⑨	・各教科等部会の内容を学部会や授業連絡会などで共通理解を行う。 ・教育課程委員会と連動させ、各部の教育課程編成につながるよう教務より、話し合いの柱を提示する。 ・各部会の記録を教務主任・管理職に回覧することで情報の共有、全体化を図る。 ・各教科等部会で受けた検討事項などを学部会で報告してもらう。	3	○各チーフと細やかに連絡・連携をとり、協議の柱を明確化し共有できた。すべての部会において系統的な年間指導計画作成の視点がずれることなく、段階的に見直すことができた。また、教科等部会での協議の内容を学部会などで共通理解することができ、教育課程の編成に活かすことができた。 ▲各部の年間指導計画作成において、どの程度各部で協議し反映できるかが課題。 ▲小中高ともにCグループの授業では進行度、授業内容の関係で教科書を全く使わない状態であることが判明した。

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

教科等部会で今年度の課題を引き継ぐため、記録の管理・保管と引継ぎを確実にを行う。

令和6年度 部・分掌部評価シート（研究部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 部門・学部ごとの協働的な学びの機会を増やし、よりよい指導につながる校内研究を行う。	○校内研究を円滑に進めるため、目的や方法、年間計画等、年度当初に全体に説明をする。 ○学部の経験年数ごとにグループ編成を行い、教員同士で学び合う機会を設定する。	3	○今回の校内研究を通して、 <u>自立活動における課題の解決や専門性の向上を感じる先生方多かった。</u> ▲年間計画や研究会の進行について、見通しがもてないとの意見が出た。研究部内での研究に対する理解や方法について共有する必要がある。 ▲協議する内容によってグループ編成を検討する必要があった。
学校努力目標（2）—②			
② 研修案内、公開授業や他部・他部門研修を行い、教職員の自主的な研修を行うことを目指す。	○全校で新システムについて研修を行い、周知、運用する。 ○ポータルサイトや掲示板を活用し研修を促す。 ○他部・他部門研修及び公開授業を実施し、目的や方法の改善、あり方について検討する。	3	○全国教職員研修プラットフォームについて校内で周知し、今のところ大きな問題なく活用することができている。 ○他部・他部門研修において希望通りの学部・部門に研修を行うことができた。 ▲公開授業は、校内研究の中で取り扱った。授業時間ということもあり参観者がいないことが多くあった。今後の実施方法について検討が必要。
学校努力目標（2）—④			
③			
学校努力目標（○）—○			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（生活生徒指導部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①非常時に備えた危機管理能力の強化を図る	・避難訓練（地震、火災）や不審者対応研修、災害時の引き渡し訓練、児童生徒搜索訓練を実施する。 ・学校安全管理マニュアルを職員に周知し、必要に応じて改訂する。	4	○予定していた訓練を実施できた。 ▲訓練を計画、実施することで、安全管理マニュアルで見直す点が出てきたので、検討していく必要がある。 ○災害時の引き渡し訓練について、保護者との共同実施に向けて少しずつ準備ができた。
学校努力目標（1）—④			
②安全点検の徹底を図る	・安全点検表の確認と報告を徹底する	4	○担当箇所を点検してもらうように点検表を配付し、毎月100%回収することができた。 ○修繕箇所があるときは、その都度事務室に報告し、すぐに対応してもらった。
学校努力目標（1）—②			
③豊かな心の教育の実践を推進する	・毎月ありがとうの7日間を設定し、児童生徒が友達や家族などに感謝を伝えたり、伝えてもらったりする場面をつくる。 ・長崎っ子の心を見つめる教育週間において学校公開を実施する。	3	○「ありがとうカード」の作成など、各部で生徒の実態に合わせた取り組みができた。 ○長崎っ子の心を見つめる教育週間では、曜日ごとに来校対象を、学部、関係機関・地域住民に分けて実施した。命の大切さや平和、思いやりなどを学ぶ授業を設定し、取り組むことができた。
学校努力目標（1）—①			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 保健体育部・分掌部評価シート

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①生徒が安心・安全に活動ができる環境を整備する。 学校努力目標（1）—② （2）—⑥⑧⑨	・環境整備においては、WSGと連携しながら、掃除計画の作成や行事前にチェックを行う。また、掃除用具や洗剤、教材などの管理や整理の担当を決め、長期休業の時間を有効活用して取り組む。 ・授業及び行事において、各学部・部門で連携を取り合いながら、活動場所や教材などが有効に活用できるようにする。 ・体育的行事が円滑に実施されるよう計画しつつ、気象環境等の状況に合わせて柔軟に児童生徒の活動調整を行ったりし、安全に実施できるようにする。	3	○WSGと連携を図ることで、職員の負担軽減につながった。担当者で連携し、洗剤購入や掃除用具の点検ができた。 ▲各学部が保有している教材の把握、管理、整頓に取り組んでいる途中である。<u>現在保有している教材を全校で有効活用できるようにし、教材の稼働回数を増やせるようにしていきたい。</u>体育館の雨漏り、グラウンドの駐車場利用の課題は引き続き対応を検討していただきたい。 ○▲体育的行事は全学部とも無事に成功することができた。<u>練習場所の確保、調整は互いに譲り合うことでうまくいっているが、気象条件によってもかなり負担感が増していた。さらなる取り組みの工夫が必要になってくる。</u>
②健康教育の充実を図る。 学校努力目標（2）—⑥⑧⑩ （3）—②③	・児童生徒へ向けたブラッシング指導を行い、歯や口の健康意識を高める。 ・アレルギー対応や給食の異物混入対応について周知を図るため、マニュアルの研修会を行い、校内体制を整える。	4	○今年度は九文生徒によるブラッシング指導が実施できた。相手校のニーズもあり、小・中学部での実施は難しかったが、あたご高等部で45分の時間設定でしっかりとできた。 ○全職員に対して給食説明会を実施した。アレルギー対応では確実に対応できた。アレルギー対応のチェック機能が適切なのか、適宜、検証、改善していく。

③食育に関する指導を充実し、児童生徒の健康増進と体力向上、さらに健康意識の向上を図る。	・食育の日には児童生徒に知らせ、献立や食材に興味をもたせるようにする。 ・食育検討会を実施し、給食に関する現在の課題を把握し、改善していけるようにする。 ・保護者及び職員に対して、配付物等で食育啓発ができるようにする。	3	○▲毎月、食育の日には実物の食材を掲示したり、郷土料理の説明をしたりすることで、児童生徒の興味関心を高めることができた。毎月の給食目標等、学部によっては意識できていない部分もあったので、担任が意識付けできる取り組みが必要である。 ○食育検討会を実施し、各部の課題を共有し、改善に向け検討することができた。 ○食の便り等を通じて、保護者向けの理解啓発を行った。給食説明会も実施できた。
学校努力目標（１）—① （２）—⑧⑨ （３）—③			

部・分掌部評価の数値が「２」以下の項目について・・・なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（進路指導部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①キャリアパスポートを確実に実施するとともに、個々の児童生徒に応じたキャリア発達に向けて「キャリア形成のための指導内容表」を見直す。	・年度初めに取り組み方を共通理解する。 ・まずは指導内容表の作成方法を確認する。 ・分掌部会の中で、1つの項目ずつ見直す。 ・見直しに向け、各学部意見集約する。	3	○キャリアパスポートの実施については確実なものになりつつある。 ○無理ないペースで指導内容表の見直しを実施している。 ▲指導内容表の見直しに向けた、各部の意見集約については今後徹底していく。
学校努力目標（2）—7			
②児童・生徒、保護者、担任が卒業後の進路を意識できるように、進路先や卒業後の生活についての情報を提供する。	・卒業後の進路先について学ぶ機会を設定する。 ・どんな進路先があるか情報提供する。 ・卒業後の具体的な生活について、面談の中で保護者、本人に伝える。	3	○地域と連携し、子どもから大人までの生活面、就労面について学べる機会を設定できた。 ○進路先の調べ方や卒業後の生活について参観時に一緒に調べたり話したりした。 ▲小、中の保護者及び先生たちへの情報提供についてはまだ課題が残る。
学校努力目標（2）—5			
③現場実習や作業学習などの取組を外部へ情報発信することで、本校への理解・協力を促進する。	・実習報告会へ外部の方を招待する。 ・企業などに学校見学をすすめる。	3	○あ高3の実習報告会へ、福祉事業所、企業あわせて10か所から参加いただいた。 ○中小企業家同友会宛に学校見学の促しを実施した。 ▲学校を、生徒を、よりいろんな方に知ってもらうのが課題。
学校努力目標（3）—3			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（自立活動部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①自立活動の指導力向上をめざすとともに、「自閉症スタンダード」の確実な実践をめざす。	・アンケート、力量形成チェックシートの結果を元に研修会の内容を企画・運営し、必要に応じて小グループでの学習会を企画する。 ・公開授業や経年研の研究授業で、自立活動に積極的に取り組んでもらうよう研究部と共同で働き掛ける。	3	○研究で自立活動に取り組んだことで、公開授業や経年研で授業を積極的に公開する教職員が増え、自立活動について複数で検討ができるようになり、授業改善が見られた。 ▲来年度以降も、日常の業務の中で授業改善できるような仕組みを定着させていきたい。
学校努力目標(2)―②			
②目標検討会、評価会等を円滑に運営し、実態把握から授業改善までのPDCAサイクルによる自立活動の授業実践をめざす。	・研修会等で目標設定シートを活用し、実態把握から目標と指導内容設定、評価までの手続きについての理解を深める。 ・目標検討会、評価会を通して、PDCAサイクルによる自立活動の授業実践を働き掛ける。また、統一した目標設定シートの様式で、全校での作成と検討を行う仕組みを定着させる。	3	○目標設定シートを活用した目標検討や指導内容の検討ができ、課題の背景要因の検討や、これまで形式的になりやすかった「項目の選定」と「項目同士の関連」を支点とした指導内容の検討ができるようになった。 ▲学習内容一覧表の中身について、自立活動部で検討を行い、来年度提案を行う計画である。
学校努力目標(2)―④			
③保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。	・外部専門家活用に関わる研修事業の活用の充実を図る。 ・発達センターを始め、関係機関へのリハビリ見学や学校訪問について、日程等の連絡調整を行う。	3	○自立活動だよりで各部の取組を取り上げ、授業参観で自立活動に取り組む部も増え、保護者への理解啓発が進んでいる。 ○外部専門家や、保育所等訪問支援事業において、多くの専門家が来校し、個別助言や研修会を通して専門性を高めることができた。また、関係機関との連携を深めることができた。 ▲外部専門家活用事業について、業務の負担も考慮し、来年度から専門家6名を3名ずつに変更して実施する。
学校努力目標(3)―③			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について・・・なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（教育支援部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①支援籍による居住地校交流を円滑に実施できるよう、交流マニュアル等を活用しながら、目的や手続きの流れ等について各担任と共通理解するとともに、交流の推進や内容の充実を図る。	・本校児童生徒と居住地校や友達との交流を推進するために、支援籍での交流を初めて行う教員に対して4月末に説明会を行うとともに、交流の進め方等について、各担任への確認連絡を定期的に行う。 ・交流を進める中で作成する書類の見直しを行い、各担任の負担軽減を図る。	3	○小中学部57名の児童生徒（前年度55名）の交流希望があった。 <u>居住地校での直接交流を1～2回と複数回の間接交流をそれぞれ実施し、地域の友達との関係を深めた。</u> ○複数の書類の簡略化し、作成に係る時間の短縮につながった。
学校努力目標（3）—2			
②校内支援体制の整備を行い、障害特性や発達段階に応じた指導の充実を図る。	・学校や家庭だけでは解決できない諸問題に対し、医療や福祉等の専門的視点の支援も活用しながら解決を目指し、スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用を推進する。	3	○SSWについて、職員に周知を行ったり、保護者に通信を発行したりしたことで、SSWへの相談が積極的に行われた。病院や社会福祉協議会等の専門機関までつながり、支援が充実されたケースもあった。 ▲ <u>不登校の児童生徒への支援（対応）が課題である。</u>
学校努力目標（2）—8			
③教育支援会議の成果と課題を整理し、放課後等できサービスや相談支援事業所等との連携した支援の充実を図る。	・学校と放課後デイサービスや相談支援事業所等の関係機関、保護者が児童生徒の課題や情報を提供し合い、適切な支援を共有することを目的とし、教育支援会議を企画する。 ・会議の実施件数を把握するとともに、必要に応じて、会議出席者以外の教員への情報提供や共通理解を行う。	3	○1月末現在で23件の支援会議（小学部8件、中学部9件、高等部6件）を実施した。会議を実施したことで、 <u>ショートステイの利用につながったり、中学部や高等部では、現在だけでなく、将来に向けた課題や支援の在り方等について視野を広げることを共有したりすることもできた。</u>
学校努力目標（3）—1			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（地域支援部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
① 特別支援教育のセンター的機能の発揮に努め、教育委員会や関係機関と連携を取り、県北地域の特別支援教育の充実・発展を図る。	・相談者・子供のニーズに応じた指導・支援に関する助言や情報提供を丁寧に行う。 ・研修支援の発信や、研修依頼に応じて依頼者の状況・ニーズ等を踏まえた研修を実施する。 ・地域の先生方向けに、テーマを変えて年3回の学習会を計画・実施する。	3	<2学期末時点> ○相談等件数118件 うち、<u>研修9件</u>（小学校1件、小学校関係2件、中学校3件、その他3件） ○佐々町と連携して、特別支援教育に関する研修を実施。佐世保市の特別支援教育研修会に助言者として参加。 ○3回の学習会を通じて、計77名の参加。<u>学習会後に、ケース会支援や研修会実施につながったものもある。</u> ▲個別の教育支援計画の作成・活用に向けたフォローアップ
学校努力目標（3）— I			
② 講義・研修への参加や協議等を通して専門的知識を高め、地域支援や情報発信に生かす。	・個々に、必要な分野の講義・研修を受講し、専門的知識を深める。 ・相談前後の意見交換、部内の自主学習会での協議等をととして、様々な視点での見方や考え方を深め、地域への助言や支援に生かす。	3	○個々に必要な内容の講義・講話を受講し、自身の知識を深め、実際の相談や研修支援などに生かした。 ○部内の意見交換会（3校舎<本校・北松分校、上五島分教室>合同）を1学期に<u>設け、お互いの考えや取組を参考にして、実践に生かした。</u> ▲コーディネーター間の定期的な意見交換・学習の場の設定。分掌部会の時間を活用するなど時間調整が必要である。
学校努力目標（3）— I			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

令和6年度 部・分掌部評価シート（情報教育部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①定期的に職員向けの研修会を行い、 <u>ICT 機器やアプリ等の使い方を知らせ、授業で活用できる人材を増やす。</u>	・適切なアプリの検索方法や申請について伝達する。 ・ICT 活用研修を実施する。	3	○自立活動部と協力し、ICT 活用に関する学習会を行い、装置や ICT 活用データベースの紹介ができた。 <u>年2回 ICT 活用研修を実施。</u> ○ <u>増加したアプリの申請について、マニュアルを作成して部内全員で配信ができる環境が整った。</u>
学校努力目標（2）—③			
②情報機器に関するマニュアルを作成したり、情報関係のルールづくりを行なったりすることで <u>情報教育の環境を整える。</u>	ICT 研修会にてホームページ作成の研修を行う。ホームページ作成マニュアルを作成する。 アプリ配信に関するマニュアル作成。	3	○iPad の AV アダプタ等の追加購入をし、学部の実態に合わせ、適切に管理できた。 ○ <u>ホームページのマニュアルを作成したことで、誰でもホームページが作成できるようになった。</u> 起案も web 決裁となり、簡略化できた。 ▲ <u>転出等の iPad の手続きが十分に周知できてなかった。</u>
学校努力目標（2）—③			
③紙媒体を含めて、情報を適切に管理する方法を徹底し、情報モラルを意識できる人材を増やす。	・端末持ち出し申請に関する ・電子データの持ち出し申請の月末の配付と回収に努める。	3	○情報資産の分類上、Teams 上でのファイル共有等、問い合わせがあり、確認ができた。 ○電子データの持ち出し申請については、期限内に処理でき適切な管理ができた。セキュリティポリシーの更新による修正もできた。 ○情報モラルに関する研修は1月に実施。
学校努力目標（1）—②			

部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目について なし

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

・iPad の貸し出しに伴う年間スケジュールと転入・転出に伴う手続きについてのマニュアルを作成する。

令和6年度 部・分掌部評価シート（文化部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①文化的行事の企画、運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。	・高等部の秋の祭典や小学部、高等部を対象とした、子供育成推進事業を計画し、運営していく。	3	○高等部は演劇鑑賞を行った。内容は良かったが、搬入搬出時間が勤務時間を大幅に超過した。外部を招いて企画する際に、搬入搬出に要する時間も確認して検討していきたい。 ○小学部は音楽鑑賞を行った。様々な芸術に触れる良い機会ではあったが、低学年にとっては、内容が少し難しいところがあった。 ▲ <u>高等部の秋の祭典では、会場の動線の面で課題が見られた。</u>
学校努力目標（2）—⑥			
②児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし、発表する場を設ける。	・夏休み作品展を計画し、他学部の子の作品を鑑賞し合う。 ・校内の掲示板を活用し、作品を発表する場を設ける。	3	○ <u>わかす棟1階の階段横掲示板を、わかす各学部の掲示板として活用した。普段の学習の成果物を、各学部が決められた月に掲示することで、各学部の児童生徒や保護者への情報提供や交流の場となった。</u> ▲夏休み作品展は、展示の仕方などで課題が見られた。
学校努力目標（2）—⑥			
③図書の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	・蔵書点検などを行い、蔵書の整備に努める。 ・職員から購入希望図書を募り、購入する。	3	○ <u>図書管理システムの更新のためにパソコンを新規にしたが、特に問題なく管理することができている。</u> ○図書室のエアコンを使用して室内を除湿することで、カビを防ぐことができた。 ▲ <u>本の紛失があり、貸し出し際のマナーやルールなどの確認が必要であった。</u>
学校努力目標（2）—⑥			

上記記載外で、次年度に向けた改善策等

○令和7年度から、小学部、中学部ときらめきフェスタの実施年がそれぞれ違う。系統性を図りながら取り組めるようにしていきたい。